

區名	試驗別	深見兵衛	岡田政一	寺井伊三郎	佐藤利七	橋本豐吉	平均
七	井字式 株	二、六二〇	二、一六七	三、〇三〇	一、五六一	二、七〇五	二、四一七
八	同 株	二、一〇〇	二、一八七	二、七六〇	一、三五〇	二、九〇二	二、二六〇
九	同 株	一、八八九	二、一七六	二、三〇〇	一、六八〇	二、二二三	二、〇四〇
〇	長方形 植	二、二〇〇	二、三四四	二、八六二	二、二二六	二、七一九	二、三七〇
一	井字式 株	二、四二〇	二、三八七	三、四二〇	一、七七一	二、七六六	二、五五三
二	井字式 株	二、五二〇	二、三六七	三、三〇〇	一、五六一	三、一八〇	二、五九九

備考 原田、櫻木、細川、中野の各委託地は反當收量を調査するに至らず。

六、肥料配合試験

委託引受人 那賀郡今津村 池内 政吉

本試験は普通農家の施用せる各種肥料の配合法を異にし以て其得失を知らんとするにあり。
一、試験別 一區十五歩宛を劃し晚稻神力種に付左の試験別により之を行ふ。

區名	試驗別	肥料名	反當量	室素	同含有成分	施肥法
一	大豆粕區	堆肥 大豆粕肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二六〇	元肥
		大堆肥	二、二五〇	一、五五〇	二、八〇〇	三分の二を元肥に三分の一を追肥とす
		過磷酸石灰	八、〇〇〇	二、五〇五	三、四四〇	追肥
		藁計	八、〇〇〇	二、五〇五	一、九八八	追肥

區名	試驗別	肥料名	反當量	室素	同含有成分	施肥法
二	大豆粕、鯨粕區	堆肥 大豆粕肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二六〇	元肥
		大堆肥	一〇、〇〇〇	七〇〇	一、六〇〇	追肥
		過磷酸石灰	五、五〇〇	八五〇	一、九六七	追肥
		藁計	一〇、〇〇〇	二、四八九	四八〇	追肥
三	大豆粕菜種粕區	堆肥 大豆粕肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二六〇	元肥
		大堆肥	一〇、〇〇〇	七〇〇	一、六〇〇	追肥
		過磷酸石灰	七、〇〇〇	八〇〇	一、二六〇	追肥
		藁計	八、〇〇〇	二、四八九	一、九六七	追肥
四	大豆、石灰素區	堆肥 大豆粕肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二六〇	元肥
		大堆肥	一〇、〇〇〇	七〇〇	一、六〇〇	追肥
		過磷酸石灰	五、三〇〇	七九五	一、二六〇	追肥
		藁計	八、五〇〇	一、二七五	一、二六〇	追肥
五	鯨素粕區	堆肥 鯨素粕肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二六〇	元肥
		石鯨素	八、〇〇〇	六六四	一、二六〇	追肥
		藁計	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、二六〇	追肥

九	八	七	六
九 糞雲英跡鯀粕區	八 紫雲種粕英區跡	七 大紫豆雲粕英區跡	六 紫雲英鯀粕區
糞 計	過 計	大 計	紫 計
過 磷 酸 石 灰	鯀 計	過 磷 酸 石 灰	過 磷 酸 石 灰
灰	灰	灰	灰
二、九、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一、五、〇〇〇	一、六、〇〇〇
一、〇、七、九	一、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇	一、〇、七、九
一、五、五、三	一、五、二	一、五、四、五	一、〇、五、〇
一、四、八、三	一、二、〇、〇	一、四、八、八	一、二、〇、〇
追肥	追肥	追肥	追肥
元肥	元肥	元肥	元肥
平量元肥	平量元肥	平量元肥	平量元肥
平量追肥	平量追肥	平量追肥	平量追肥

但し第七區より第十區に至る四區は紫雲英を栽培せる跡地にして生草一千貫の生産ありたるものと見做し配合せり。

一、插秧期 六月十六日

二、株数及本数 一坪四十九株 一株三本植とす。

一、除草 一番除草六月二十九日 二番除草七月九日 三番除草七月十七日 四番除草七月二十九日に施行せり。

一、生育 插秧後は七月上旬頃より二化性螟虫の發生甚しく一時は多大なる加害を受け生育を阻害したれども七月下旬頃より漸時減少し生育亦恢復旺盛となるに至れり。

各區に於ける生育の状況左の如し。

區別	試驗別	八月九日調査	出穂期	出穂整否	成熟期	收穫期
一	大豆粕種粕區	二、三、〇	九、三	整	一〇、二、六	一〇、三〇
二	大豆粕種粕區	二、三、〇	九、三	整	一〇、二、六	一〇、三〇
三	大豆粕種粕區	二、三、〇	九、三	整	一〇、二、六	一〇、三〇
四	大豆粕種粕區	二、三、〇	九、三	整	一〇、二、六	一〇、三〇
五	鯀石灰室素區	二、三、〇	九、三	整	一〇、二、六	一〇、三〇
六	紫雲英跡種粕區	二、四、〇	九、三	整	一〇、二、六	一〇、三〇
七	紫雲英跡種粕區	二、四、〇	九、三	整	一〇、二、六	一〇、三〇
八	紫雲英跡種粕區	二、四、〇	九、三	整	一〇、二、六	一〇、三〇
九	紫雲英跡種粕區	二、四、〇	九、三	整	一〇、二、六	一〇、三〇

一、收量成績

區別	試驗別	米		米		糶摺歩合	藁量
		一升重量	收量	一升重量	收量		
一	大豆粕區	399	1,147	280	68,300	47	24,000
二	大豆粕種粕區	392	1,485	276	86,900	50	21,100
三	大豆粕菜種粕區	388	1,216	270	68,800	47	23,000
四	大豆粕石灰窒素區	388	909	278	56,140	44	17,000
五	鯨粕石灰窒素區	390	1,034	280	61,600	47	23,000
六	紫雲英鯨粕區	390	1,176	274	67,200	47	23,000
七	紫雲英跡大豆粕區	388	1,184	275	69,300	47	23,000
八	紫雲英跡菜種粕區	390	1,333	270	72,900	49	23,000
九	紫雲英跡鯨粕區	392	1,511	280	85,700	51	25,500
一〇	雲紫英跡石灰窒素區	388	910	280	56,000	45	27,500

前表により之を見るごきは第九區收量最も多く第二區之に亞ぎ第八區第七區等相順位し第十區最も劣れりと雖本年は九月上旬及十月上旬に於ける暴風雨の爲め著しく生育及收量を減殺せられたるを以て其收量成績に於ても稍正鵠を失ふるの嫌なき能はざるなり。

七、酸性土壤改良試驗

本試驗は酸性土壤に對する適當なる肥料の配合法を知り併て中和用石灰の効力如何を査定せんごするにあり。

委託引受人 佐藤利吉
名東郡南井上村 藤本幸平
勝浦郡生比奈村

一、設計 一區一畝歩宛を劃し左の試驗別により之を行ふ。

但し石灰適量區に用ふべき石灰は試驗地全酸度の中和に要する量とす。

區別	試驗別	肥料名	反當用量	元肥	追肥	所含三要素	加量
一	普通肥料	堆肥	200,000	200,000		1,000	1,160
		鯨粕肥	10,000	5,000	5,000	970	500
		人糞尿	100,000	50,000	50,000	570	270
二	鹽基性肥料 其一	堆肥	200,000	200,000		2,540	2,084
		鯨粕肥	8,000	4,000	4,000	1,000	1,130
		人糞尿	100,000	50,000	50,000	776	400
三	鹽基性肥料 其二	堆肥	200,000	200,000		2,540	2,084
		石灰窒素肥	5,000	5,000		1,000	1,130
		人糞尿	100,000	50,000	50,000	750	400
計	木蒸灰	堆肥	6,000	6,000	6,000	2,556	2,074
		石灰窒素肥	5,000	5,000		1,000	1,160
		人糞尿	7,000	7,000	7,000	750	400
計	木蒸灰	堆肥	6,000	6,000	6,000	2,556	2,074
		石灰窒素肥	5,000	5,000		1,000	1,160
		人糞尿	7,000	7,000	7,000	750	400
計	木蒸灰	堆肥	6,000	6,000	6,000	2,556	2,074
		石灰窒素肥	5,000	5,000		1,000	1,160
		人糞尿	7,000	7,000	7,000	750	400
計	木蒸灰	堆肥	6,000	6,000	6,000	2,556	2,074
		石灰窒素肥	5,000	5,000		1,000	1,160
		人糞尿	7,000	7,000	7,000	750	400
計	木蒸灰	堆肥	6,000	6,000	6,000	2,556	2,074
		石灰窒素肥	5,000	5,000		1,000	1,160
		人糞尿	7,000	7,000	7,000	750	400

供試品種	神 力				
	堆肥	人糞	過磷酸石灰	木灰	石灰
四 普通肥料 石灰適量加用	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000
五 普通肥料 石灰多量加用	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000
計	100,000	10,000	100,000	10,000	100,000

一、供試品種 神 力
 一、插秧期 佐藤利吉は六月二十八日 藤本幸平は六月十五日插秧せり。
 一、株数及本数 一坪四十九株 一株三本植す。
 一、除 草
 第一回除草 插秧後十日乃至二週間を経て蟹爪打を行ひ且つ螟虫の採卵又は捕虫を行ひ其後二三日を経て蟹爪直しを行ふ
 第二回除草 第一回除草後一週間乃至十日を経て蟹爪にて土壤を軟げ其儘数日間可成淺水となしたる後蟹爪

直しを行ふ。
 第三回除草 第二回除草後一週間乃至十日を経て八反取にて縦横に掻き軟ぐ。
 第四回除草 第三回除草後一週間乃至十日を経て手取を行ふ。
 第五回除草 第四回除草後一週間乃至十日を経て手取を行ふ。
 一、生育 插秧後は各區共比較的健全の發育を遂げたりと雖七月中旬頃より二化螟虫の發生甚しく兩試驗地共各區に亘り非常なる被害ありて就中石灰窒素施用區に於て最も甚しかりしも被害莖拔取其他防除に勉めたる結果八月下旬頃より漸次元氣恢復し旺盛の發育を遂ぐるに至れり。
 各區に於ける生育狀況左の如し。

區名	試驗別	佐藤利吉		藤本幸平	
		十月十五日調査 草丈分蘗	出穂期 成熟期	十月十五日調査 草丈分蘗	出穂期 成熟期
一 普通肥料	三、五二	九月五	二、四四	九月四	二、一五
二 鹽基性肥料其一	三、六二	同	二、四〇	同	二、一五
三 同 其二	二、六三	同	二、三〇	同	二、一五
四 普通肥料 石灰適量加用	三、六二	九、八	二、三五	九、四	二、一五
五 普通肥料 石灰多量加用	三、六二	同	二、二五	九、三	二、一五

委託引受人名	區名	試驗別	玄 米		粳 米	
			一升重量	收 量	一升重量	收 量
一 普通肥料	一	普通肥料	三六〇	一、八四〇	二二〇	三、六八〇
二 鹽基性肥料其一	二	鹽基性肥料其一	三七〇	一、八三〇	二四〇	三、六六〇

委託引受人名	區名	試驗別	米		藁	
			一升重量	收量	一升重量	收量
佐藤利吉	三	同	三七五	一、四七五	二四五	二、九五〇
			三六〇	一、四三五	二三〇	二、八七〇
	四	普通肥料	三六五	一、七〇〇	二二二	三、四〇〇
			三九〇	一、六〇〇	二八〇	三、一〇〇
	五	石灰多量加用	三九〇	一、五二〇	二八〇	三、〇〇〇
			四〇〇	二、〇二〇	二八五	三、九〇〇
	三	同	三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇
			三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇
	四	普通肥料	三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇
			三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇
五	石灰多量加用	三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇	
		三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇	
藤本幸平	二	鹽基性肥料其一	三九〇	一、五二〇	二八〇	三、〇〇〇
			四〇〇	二、〇二〇	二八五	三、九〇〇
三	同	其二	三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇
			三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇
四	普通肥料	其用	三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇
			三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇
五	石灰多量加用	其用	三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇
			三九〇	一、七〇〇	二八〇	三、〇〇〇

本年は九月上旬及十月上旬の二回稀有の暴風雨の襲來ありて其被害少からず殊に出穂期の早晚により其程度に甚き差異を生じたる結果前表の如く其收量成績も區々に亘り殆んど據る所なきに至れり。

八、鹽害防除試驗

委託引受人

那賀郡福井村 植田萬吉
板野郡松茂村 杉田百太郎

本試験の水稻に對する鹽害の防除を行はんとするには如何なる肥料の配合を行ふを以て得策とするやを知らんとするにあり。

一、試験別 一區一畝歩宛を劃し左の試験別により之を行ふ。
但し施肥量は反當窒素二貫匁磷酸加里各一貫匁の割合とす。

區別	試驗別	肥料名	反當	施用	施肥法
一	普通肥料	大豆粕 人糞 過磷酸石灰 木灰	二、〇〇〇	二、〇〇〇	半量元肥半量追肥 追肥二回に分施
二	無機性酸性肥料	硫酸アンモニア 過磷酸石灰 硫酸加里	七、〇〇〇	七、〇〇〇	元肥
三	有機性酸性肥料	野草 米糠 大豆粕	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	同
四	普通多量	人糞 過磷酸石灰 木灰 大豆粕	二、〇〇〇	二、〇〇〇	半量元肥半量追肥 追肥二回に分施す
五	普通進肥料 石膏加用 其一	過磷酸石灰 人糞 木灰 大豆粕	四、〇〇〇	五、〇〇〇	元肥
		大豆粕	二、〇〇〇	二、〇〇〇	半量元肥半量追肥

六 普通肥料 石膏加用 其二	人糞 尿 過磷酸石灰 木灰 石膏	100,000 40,000 30,000 10,000	1 追肥二回に分施 元肥 追肥 牛量元肥牛量は鹽害の兆を認めたる ミキ施用す
-------------------	------------------------	---------------------------------------	--

二〇四

一、供試品種 植田萬吉 神力 杉田百太郎 晩笹
 一、移 植 植田萬吉 六月十三日 杉田百太郎 六月十四日
 一、鹽害 試驗地は兩者其地底より含鹽水を湧出し而も低地たるを以て灌漑水を以て含鹽水を流出せしむること能はず從て年々鹽害を被ること少からず
 一、生育の狀況 本年は平年に比し鹽害の發生甚だしく從て稻の生育も稍順調なりしも六月下旬頃より降雨量減少したる爲め各區に亘り漸次被害の兆候を現し次第に生育を不良ならしめ植田萬吉委託地の如きは遂に一回の植替を要する箇所を生ずるに至れりと雖石膏加用により稍元氣を恢復するに至れり
 各區に於ける生育の狀況は左の如し。

區名 試驗別	植田萬吉		杉田百太郎	
	十月十四日調查	出穗期 成熟期	十月十九日調查	出穗期 成熟期
一 普通肥料	二、四六	八、二九	二、三五	九、一〇
二 無機性肥料	二、六七	同	二、三〇	同
三 有機性肥料	二、四九	同	二、二五	同
四 普通肥料多用	二、六九	八、三〇	二、二六	同
五 普通肥料多用 其一	二、五五	八、三二	二、四〇	同
六 石膏加用 其二	二、七五	八、三〇	二、三〇	同

備考 植田萬吉第五第六の二區は最も鹽害の甚しき箇所なるを以て特に稻の生育不良なりし。
 一、成績

區別 試驗別	植田萬吉		杉田百太郎	
	收量 一升重量	粒量 重量	收量 一升重量	粒量 重量
一 普通肥料	一、五四	八四、七〇	一、五四	七三、五〇
二 無機性肥料	一、五〇	八三、六〇	一、五七	七三、六〇
三 有機性肥料	一、四〇	七四、四〇	一、四八	六六、〇〇
四 普通肥料多用	一、五〇	七六、七〇	一、五八	七一、五〇
五 普通肥料多用 其一	一、九〇	四九、四〇	一、五五	七三、一〇
六 石膏加用 其二	一、九六	五八、〇〇	一、五八	七三、五〇

前表により之を見るときは兩試驗地に於ける成績は其軌を一にせざれども本年は出穗期に於て稀有の暴風雨の襲來を受け之が爲め著しく其生育を阻害せられたるによるものなるを以て更に回を重ねて確証すべし。

九、柑橘委託試驗

委託者 勝浦郡棚野村大字坂本 井上武一
 目的、本委託試驗の目的は試作的栽培を行ひ、地方に於ける、該樹の生育の狀態、病虫害の如何を觀、以て之が栽培方法を改善し病虫害の驅除豫防方法に就き研究せんとするにあり。
 供試品種 温州蜜柑 各區五本
 肥料、試驗區一反歩に對する肥料用量左の如し。

右の成績によれば試験區は在來區よりも生産量多く、而も大中の果實多きに比し小果は在來區よりも少きを見たり、而して右は單に一ヶ年の成績なるを以て、更に試験を重ねてその正確を期せん。

一〇、蔬菜委託試験

委託引受人 板野郡里浦村 宮崎 幸七

目的、本委託試験の目的は試験的栽培を行ひて其地に於ける生育の状況、病虫の加害状態を観察し、以て之が栽培法を改善し、及び病虫害の驅除豫防方法に就き研究せんとするにあり。

供試品種

區別	供試種類	供試品種	種子取寄先
試驗區	瓜	アイスクリーム	東京府下澁谷道玄坂 日本農園
在來區	瓜	アイス、クリーム雜種	委託地在來種子

耕種梗概

本圃整地、前年の秋畑地を充分に耕起し、幅二尺の畦を作り之に二畦目毎に一畦を残して稈麥を下種し置き、翌春この残し置きたる空畦を充分に耕起して土塊を細碎し播種期に至らば豫め既定の位置に元肥を施用し、後ち播種をなせり。

畦幅及株間

試驗區 畦幅六尺 株間四尺
在來區 畦幅六尺 株間五尺

播種期 四月二十八日

播種法、試験區用種子は播種一晝夜前より微温湯に浸し、催芽法を行ひたるものを、所定の株間に一ヶ所六七粒宛、種子の尖れる部を斜め下にならしむる様下種せり。

在來區は播種前水に浸し置き、一ヶ所八九粒宛下種す。

肥料、一反歩に要する施肥用量左の如し。

區名	肥料名	施用全量	施肥期別				所含三成分		
			元肥	補肥(一)	補肥(二)	補肥(三)	窒素	磷酸加里	
試驗區	堆肥	100,000	100,000				1,000	0,520	1,260
	鯀粕	15,000					1,246	0,840	0,105
試驗區	米糠	10,000					0,416	0,756	0,280
	過磷酸石灰	15,000						1,250	
試驗區	木灰	10,000						0,844	
	人糞	10,000						0,195	0,445
試驗區	計	200,000	50,000				0,855	0,195	0,445
	木灰	10,000					2,577	4,561	4,439
在來區	鯀粕	10,000					1,660	1,110	0,140
	木灰	15,000							1,266
在來區	人糞	400,000	100,000				3,900	1,640	2,466
	計	400,000	100,000				6,000	70,000	70,000

備考、試験區にありては播種後直ちにその上面に石灰一〇貫を粗砂の同量と混じたるものを撒布す、

在來區に於ける人糞尿の中元肥二〇〇貫は冬期より春期に亘りて數回に分施し置けり。

施肥法、在來區にては元肥を播種すべき部分一面に撒布すれ共、試験區にありては、播種一週間前に下種すべき位置を中心とし、直径一尺許りの輪溝を作り、此部分に元肥を施し置けり。

施肥は在來區に於ては一ヶ所に施すも試験區にては元肥を施せし輪外に元肥と同様の方法を用ひて施與す、

間引 第一回

發芽後一週にして行ひ一株四五本となす。

第二回 本葉二三枚を生じたる時行ひ、一株二三本となす。
 第三回 本葉三四枚を生じたる時に行ひ、一株一本となす。
 摘心、試験區にては本葉五六枚を生じたる時に其四枚を残して摘心し、側枝四本を發育せしめ、蔓の伸長するに従ひ、麥稈を敷き、莖葉に土砂の附着を防げり、但し在來區は摘心を行はず。
 追肥施用期
 第一回 五月廿日
 第二回 五月二十七日
 第三回 六月十三日
 第四回 六月二十八日

中耕及除草、播種後時期を見計ひ適宜中耕及び除草をなせり、又六月十一日麥稈を敷きて莖葉に土砂の附着するを防げり。
 病虫害驅除豫防法、瓜守及び種蠅の被害多ければ、下種すると共に種子の周圍にタール合劑を撒布し以て之が豫防をなし、尙爾後二三回之を撒布せり。

試験成績

試験區	採收月日	個收		改算	
		數	重量	數	重量
在來區	七月二十一日	一八二	一三九、四〇〇	七八、〇〇〇	五五七、六〇〇
試驗區	八月二十一日	一六三	二二六、二〇〇	六五二、〇〇〇	四九二、八〇〇

以上の成績によれば、試験區は在來區に比し、收量多しと雖、當年度は播種以來瓜守及種蠅の幼虫、成虫共に害すること甚しく、爲に播種期其當を失したるもの等あり、正確なる成績を得る能はざりしが故に、其確實を期する爲、尙同地に於て試験を繼續中なり。
 一一、麥立枯病豫防試験

委託引受人 麻植郡三山村 新開 宗次
 三好郡三野村 宮本 要

本試験は麥立枯病を豫防せんが爲め肥料の配合並に特殊肥料の殺菌性を利用して土壤の消毒を行ひ以て立枯病發生の多少並に豫防の効果如何を査究せんとするにあり。
 一、試験別 一區一畝歩宛を劃し左の試験別により之を行ふ。

區別	試驗別	肥料名	反當量	窒素	磷酸	加里	施肥法
一 普通肥料	堆肥	大豆粕肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	一、二六〇	元肥
		智利硝石	七、〇〇〇	四九〇	〇九二	同	
		過磷酸石灰	五、〇〇〇	七五〇	同	追肥二回	
		木灰	五、〇〇〇	同	同	元肥	
		計	五、〇〇〇	二、二四一	七五〇	一、六八二	同
	堆肥	大豆粕肥	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	一、二六〇	元肥
		智利硝石	七、〇〇〇	四九〇	〇九二	同	
		過磷酸石灰	五、〇〇〇	七五〇	同	追肥二回	
		木灰	五、〇〇〇	同	同	元肥	
		計	五、〇〇〇	二、二四一	七五〇	一、六八二	同
二 磷酸加里多用	過磷酸石灰	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、二六六	元肥	
	木灰	一五、〇〇〇	同	同	同		
三 石灰窒素施用	石灰窒素	一五、〇〇〇	二、七〇〇	一、五〇〇	二、二二二	元肥	
	過磷酸石灰	一〇、〇〇〇	同	同	同		

一一、煙草立枯病豫防試験

委託引受人 美馬郡一字村 南 賢太郎
 三好郡山城谷村 西 田 與平

本試験は煙草立枯病を豫防せんが爲め肥料の配合並に特殊肥料の殺菌性を利用して土壤の消毒を行ひ以て立枯病發生の多少並に豫防の効果如何を査究せんとするにあり。
 一、試験別 一區一畝歩宛を劃し左の試験別により之を行ふ。

區別	試験別	肥料名	反當量		施肥法	
			南賢太郎	西田與平		
一 普通肥料	普通肥料	堆肥	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	元肥	
		大豆粕肥	一〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	同	
		人糞	五,〇〇〇	六,〇〇〇	追肥	
		多木肥料 ₄ 號	—	六,〇〇〇	同	
		木灰	—	一五,〇〇〇	元肥	
	二 磷酸加里多用	磷酸加里多用	堆肥	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	同
			大豆粕肥	一〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	同
			人糞	五,〇〇〇	六,〇〇〇	追肥
			多木肥料 ₄ 號	—	六,〇〇〇	同
			過磷酸石灰	—	七,〇〇〇	元肥
堆肥	—	一五,〇〇〇	同			
石灰窒素	—	一五,〇〇〇	同			

區別	肥料名	反當量		施肥法	
		南賢太郎	西田與平		
三 石灰窒素施用	石灰窒素施用	人糞	五,〇〇〇	六,〇〇〇	追肥
		過磷酸石灰	—	七,〇〇〇	元肥
		堆肥	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	同
		大豆粕肥	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	同
		人糞	一〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	同
		多木肥料 ₄ 號	—	六,〇〇〇	追肥
		木灰	—	六,〇〇〇	同
		石灰	五,〇〇〇	一五,〇〇〇	元肥
		堆肥	三〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	同
		大豆粕肥	一〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	同
四 普通灰加肥料	普通灰加肥料	堆肥	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	同
		大豆粕肥	一〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	同
		人糞	五,〇〇〇	六,〇〇〇	追肥
		多木肥料 ₄ 號	—	六,〇〇〇	同
		木灰	—	一五,〇〇〇	元肥
		石灰	五,〇〇〇	一五,〇〇〇	同
		堆肥	三〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	同
		大豆粕肥	一〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	同
		人糞	五,〇〇〇	六,〇〇〇	追肥
		多木肥料 ₄ 號	—	六,〇〇〇	同
五 普通肥料 硫黃華加用	普通肥料 硫黃華加用	堆肥	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	同
		大豆粕肥	一〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	同
		人糞	五,〇〇〇	六,〇〇〇	追肥
		多木肥料 ₄ 號	—	六,〇〇〇	同
		木灰	—	一五,〇〇〇	元肥
		硫黃	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	同

但し施肥量は反當南賢太郎は窒素二貫五百匁、磷酸一貫匁、加里二貫匁、西田與平は窒素四貫匁、磷酸二貫匁、加里二貫匁の割合とす

- 一、肥料於用法
- イ、大豆粕 は腐熟せる堆肥と等分に混合し堆積して充分腐熟せしめたるものを植付の際殘餘の堆肥と混合し元肥として施用す。
 - ロ、人糞尿 は充分腐熟したるものを三回に分ち稀釋して追肥として施用す。

ハ、過磷酸石灰及多木肥料 は植付の際元肥として施用す。
 ニ、石灰窒素、は移植二週間前に移植すべき箇所へ施用し能く耕土と混和せしめ覆土し置くものとす。
 ホ、石灰、硫黄華木灰は移植数日前に移植すべき箇所へ施用し能く耕土と混合し置くものとす。
 一、移植期及移植本数

委託引受人	移植期	畦間株	畦間	一反歩當り植付本数
南 賢太郎	六月四日	二、四	九	五、〇〇二
西田 與平	五月十八日	二、六	八	五、一三三

麥間に移植す

一、生育の状況

本年は移植後旱天連続し土地甚しく乾燥したるを以て肥料の吸収宜しからず煙草の生育著しく遅緩なりしが六月中旬に至り降雨數日に亘り稍過多の水濕を得るに至り煙草は急激の生長を始め却て莖葉軟弱に陥りたる結果西田與平委託試験地の如きは却て赤星病の發生を來し大に生育を阻害するに至れり、爾來天候稍順調に復したる之が防除に力めたるが爲め漸次生育佳良となり相當の作況を呈するに至れり。
 立枯病の發生は平年に比し稍少かりしも最初其發生を見たるは西田與平試験地は六月二十四日、南賢太郎試験地は六月二十五日にして七月上旬頃其最盛期にして爾後漸次減少するに至れり。
 一、立枯病發生本数 立枯病發生本数及歩合左の如し。

區別	試驗別	南 賢太郎		西田 與平		備考
		反當り本数	百分率	反當り本数	百分率	
一	普通肥料	二〇	二、二〇	一六	一、六〇	西田與平試験地第三區に發病多きは根寄後俄かに發病するもの多きによる
二	磷酸加里多用	一五	一、五〇	二〇	二、〇〇	
三	石灰窒素施用	三〇	三、〇〇	二〇	二、〇〇	
四	普通肥料加用	二〇	二、〇〇	二〇	二、〇〇	
五	普通肥料加用	二四	二、四〇	二〇	二、〇〇	

一、成績 收量査定並に池田專賣支局に於て鑑定したる各區に對する調査左の如し。

區別	試驗別	池田 專賣		西田 與平	
		反當り本数	百分率	反當り本数	百分率
一	普通肥料	五〇	五、〇〇	一〇	一、〇〇
二	磷酸加里多用	六五	六、五〇	一〇	一、〇〇
三	石灰窒素施用	七五	七、五〇	一〇	一、〇〇
四	石灰加用	六〇	六、〇〇	一〇	一、〇〇
五	硫黄華加用	六二	六、二〇	一〇	一、〇〇

以上の如く一區五區優り二區四區之れに亞ぎ三區劣れり一般に葉色の裏抜け悪し

區別	試驗別	池田 專賣		西田 與平	
		反當り本数	百分率	反當り本数	百分率
一	普通肥料	五〇	五、〇〇	一〇	一、〇〇
二	磷酸加里多用	五五	五、五〇	一〇	一、〇〇
三	石灰窒素施用	六〇	六、〇〇	一〇	一、〇〇
四	石灰加用	五五	五、五〇	一〇	一、〇〇
五	硫黄華加用	五〇	五、〇〇	一〇	一、〇〇

總括的品質の順位は第一區最良にして第五區第二區の順序に低下し第三區第四區は差異なく共に最劣なり第一區は引火良好なるも他區は不良なり

一三、梨鋸蜂驅除試験

委託引受人 板野郡大津村 寺田 健太郎

本試験は梨鋸蜂の成虫發生期に於て成虫の産卵を防止し以て之が加害を減殺せんが爲め各種の藥劑を撒布し以て其効果の多少を検知せんとするにあり。

一、試験別 供試樹は明月梨八年生を用ひ一區五本宛とし左の區別により之を行ふ。

- 第一區 無豫防
- 第二區 亞砒酸加用石灰ボルドウ液撒布
- 第三區 パリスグリーン加用石灰ボルドウ液撒布
- 第四區 亞砒酸鉛加用石灰ボルドウ液撒布
- 第五區 札幌合劑撒布
- 第六區 除虫菊加用石灰ボルドウ液撒布
- 第七區 煙草加用石灰ボルドウ液撒布

一、藥劑の調製法

- 「イ」亞砒酸加用石灰ボルドウ液 三斗式石灰ボルドウ液を作り亞砒酸十八匁を混和す
 - 「ロ」パリスグリーン加用石灰ボルドウ液 同 上 パリスグリーン二十匁を混和す
 - 「ハ」亞砒酸鉛加用石灰ボルドウ液 同 上 亞砒酸鉛二十四匁を混和す
 - 「ニ」札幌合劑 亞砒酸六匁を水一合に投じ洗濯曹達二十四匁を加へ煮沸して液の酒色となりたるとき三斗式石灰ボルドウ液に混和す
 - 「ホ」除虫菊加用石灰ボルドウ液 三斗式石灰ボルドウ液を作り除虫菊粉三十匁を混和す
 - 「ヘ」煙草加用石灰ボルドウ液 同 上 煙草粉五十匁を混和す
- 一、藥劑撒布期 鋸蜂が發生を始めたるは四月三日頃にして四月十五日頃を以て其最盛期とす、藥劑撒布の期日左の如し。

第一回	四月八日	晴	天	花將に開綻せんとす
第二回	四月十五日	曇	天	花一分通り萎凋

但し藥劑の撒布は三回施行の豫定なりしも天候の都合により以上の二回に止めたり。

一、藥劑撒布後の狀況 藥劑の撒布後は時々園内を巡視し藥劑による被害の有無並に鋸蜂襲來の狀況を調査したるに第一回撒布後に於て第二區亞砒酸加用ボルドウ液を撒布したる樹に限り多少の被害ありて花及萼片を僅かに黒焦したるものありたれども其他にありては被害を認めず、而して藥劑の撒布後は第一、第六、第七の三區を除き毒劑を撒布したる各區には成虫の來襲極めて少く著しく産卵を防止することを得たり。

一、成績

區別	試驗	被害果數	結實數に對する被害の割合%	順位
一	無豫防	四二〇	七八、二	七
二	亞砒酸加用石灰ボルドウ液撒布	一八	三、五	一
三	パリスグリーン加用石灰ボルドウ液撒布	二〇	三、八	二
四	亞砒酸鉛加用石灰ボルドウ液撒布	二二	四、六	三
五	札幌合劑撒布	二二	四、七	四
六	除虫菊加用石灰ボルドウ液撒布	九三	二〇、六	五
七	煙草加用石灰ボルドウ液撒布	二三	四五、〇	六

右の成績により之を見るべきは本試験の中最も有効なりしは毒劑撒布にして就中亞砒酸撒布區最も効果多くパリスグリーン、亞砒酸鉛、札幌合劑の各區相順位し除虫菊煙草の二區は其効果頗る少く到底完全なる防除劑と認むる事能はざりし

調査の部

一、二化性螟虫發蛾時期調査

本調査は前年よりの繼續にして本場附近に於ける二化性螟虫の發蛾時期を知らんが爲め毎夜誘蛾燈を点火し以て發蛾の時期並に雌雄別を檢せり左の如し。

第一	化期	發蛾初期	同最盛期	同最終期
第二	化期	發蛾初期	同最盛期	同最終期
第一	五月十三日	五月十三日	六月十七日	七月十一日
第二	八月三日	八月三日	九月十一日	九月十四日

今本調査創始當時即ち明治四十二年より本年に至る累年成績を示せば左の如し。

年次	一化			二化		
	發蛾初期	同最盛期	同最終期	發蛾初期	同最盛期	同最終期
四十二年	五月二十八日	六月十六日	七月十九日	九月二日	九月八日	九月十八日
四十三年	五月六日	六月十二日	七月二十二日	八月廿一日	八月廿八日	九月十一日
四十四年	五月十八日	六月十九日	七月七日	八月廿六日	八月三十日	九月四日
元年	五月八日	六月十日	七月十三日	八月十二日	八月十八日	八月廿四日
二年	五月十四日	六月八日	七月十七日	八月十日	八月十九日	八月廿五日
三年	五月十二日	六月十日	七月十七日	七月廿九日	八月廿一日	九月四日
四年	五月十三日	六月十七日	七月十一日	八月三日	九月一日	九月十四日

二、二化性螟虫加害時期調査

(十歩當り)

本調査は前年よりの繼續にして二化性螟虫の加害時期を知らんが爲め挿秧後五日目毎に心枯及枯莖を拔取り調査したるものにして成績左の如し。

月日	拔取總莖數	二化螟虫被害莖數	病害其他被害莖數	總虫數	一莖にある虫數
七月五日	六	五	九	五	二、一、二、三、四、一、二、三、一、二、三、六
七月十日	四	二	四	二	五、一頭宛百十一本二頭宛三十六本四、七、七、一〇、四、六、四、三、三、一頭宛三十九本二頭宛四本
七月十五日	一	一	八	一	一頭宛三十三本
七月二十日	一	一	一	一	六、四、一、一、五、二、二、二、二、二、二、一、一、一、一、一、
七月二十五日	一	一	一	一	四
八月一日	一	一	一	一	一、一、一、一、
八月五日	一	一	一	一	一、一、一、一、
八月十日	一	一	一	一	一、一、一、一、
八月十五日	一	一	一	一	一、一、一、一、
八月二十日	一	一	一	一	一、一、一、一、
八月二十五日	一	一	一	一	一、一、一、一、
九月五日	一	一	一	一	一、一、一、一、
九月十日	一	一	一	一	一、一、一、一、
九月十五日	一	一	一	一	一、一、一、一、
九月二十日	一	一	一	一	一、一、一、一、
九月二十五日	一	一	一	一	一、一、一、一、

九月三十日	八	二、一、二、三、一、一、四、三
十月五日	七	一、二、二、一、三、一、一、
十月十日	四	三、二、二、一、三、二、二、三、二、一、
十月十五日	三	二、二、一、一、一、一、
十月二十日	六	二、二、一、頭宛十四本
十月三十日	五	二、一、頭宛十九本
十一月三日	七	三、二、一、頭宛十本

今本調査創始當時明治四十三年より本年に至る迄の累年平均成績を示せば左の如し。(但し大正二年は調査を欠ぐ)

月次	四十四年	四十四年	元	年	三	年	四	年	累年平均
七月	三	三	一	三	一	二	五	八	二〇、六
七月	四	三	二	二	二	二	四	八	一九、八
八月	二	二	二	二	二	二	二	八	一〇、二
八月	三	三	三	三	三	三	三	八	二九、四
九月	四	三	一	二	二	二	二	八	二九、四
九月	三	三	一	二	二	二	二	八	二九、四
十月	二	三	一	二	二	二	二	六	二五、六

中旬	八	二九	八七、〇	二九〇
下旬	五	二二	三五	二二
月上旬	七	三	二七	三

三、二化性螟虫越冬状況調査
本調査は前年よりの繼續にして二化性螟虫が冬期より翌春羽化期に至る期間如何なる割合を以て葉及株中に於て越冬するものなるやを知らん爲め各十歩に付調査せり左の如し。

今本調査創始當時明治四十二年より本年へ至る迄の累年平均成績を示せば左の如し。

年次	葉中にある虫数	株中にある虫数	葉中にある虫数	株中にある虫数
四十二年	一五九	六〇	二四〇	六〇
四十三年	一一〇	二〇	三〇	二
四十四年	三三〇	一五〇	三〇〇	一六〇
元年	三六八	二二	四四四	一八
二年	三三四	三九	二〇八	五
三年	二八二	八	四九七	二五〇
四年	三三九	五	二五〇	七
平均	三三〇	二〇	三〇〇	二

本年度に於て一般の依頼に應じたる酸性土壌調査成績左の如し。

四。酸性土壌調査成績

番 號	採 集 地 名	氏 名	地 目	土 質 性	全 酸 度 c.c
17	野 郡	高橋繁太郎	畑	粘質壤土	六、七
16	川 郡	左川林次郎	畑	粘質壤土	七、五
15	板 郡	宮田岸太郎	畑	粘質壤土	一、二、六
14	同	同	同	粘質壤土	一、八、〇
13	同	同	同	粘質壤土	二、四、九
12	同	同	同	粘質壤土	一、八、三
11	同	同	同	粘質壤土	一、三、二
10	同	同	同	粘質壤土	一、二、九
9	同	同	同	粘質壤土	一、三、二
8	同	同	同	粘質壤土	六、九
7	同	同	同	粘質壤土	一、八、三
6	同	同	同	粘質壤土	二、四、三
5	同	同	同	粘質壤土	二、四、〇
4	同	同	同	粘質壤土	一、三、八
3	同	同	同	粘質壤土	一、二、二
2	同	同	同	粘質壤土	四、二
1	名東郡加茂村大字田宮	原蠶種製造所	宅	粘質壤土	一、二、〇

番 號	採 集 地 名	氏 名	地 目	土 質 性	全 酸 度 c.c
38	堀江郡	長門虎藏	同	粘質壤土	七、八
37	北島郡	新居紋平	同	粘質壤土	五、八
36	應神郡	岩田徳太郎	同	粘質壤土	四、五
35	板西郡	増本次郎	同	粘質壤土	四、二
34	板西郡	尾上勝三郎	同	粘質壤土	二、七
33	藍園郡	佐野宇太郎	畑	粘質壤土	四、五
32	藍園郡	犬伏九源太	同	粘質壤土	一、四
31	榮坂郡	高橋官太郎	同	粘質壤土	三、〇
30	松島郡	多田幸太郎	同	粘質壤土	六、六
29	松島郡	川上治藤太	同	粘質壤土	五、七
28	同	七條彦吉	同	粘質壤土	三、三
27	同	川瀬國太郎	同	粘質壤土	三、三
26	大山村	清水次郎	同	粘質壤土	二、七、三
25	御所村	三木久吉	同	粘質壤土	六、五
24	同	村部茂治郎	同	粘質壤土	六、九
23	同	福島政太郎	同	粘質壤土	一、二、六
22	美馬郡	山田浪助	畑	粘質壤土	一、八
21	同	同	同	粘質壤土	一、八
20	同	同	同	粘質壤土	三、六
19	同	同	同	粘質壤土	一、八
18	同	同	同	粘質壤土	三、六

一、實地指導 (委託試驗監督を含む) 二百九十七日
 一、品評會審査 五十七日
 一、其他 六十一日
 計 四百九十七日

來觀人員

本年度に於て當場視察實地研究、及質問の爲め來場せる人員左の如し

壹千貳百六拾壹名

質問應答件數

本年度に於て質問應答せるもの左の如し

參百五拾四件

講習生養成

町村農會技術員養成の目的を以て本縣農會の委託により各一ケ年を期間とし大正二年度より當場に於て講習を開始し大正二年度に於ては六名大正三年度に於ては五名大正四年度に於ては八名を收容養成せり

本年度に於て文書受發件數左の如し

一、受付文書 一、五六〇件 二、發送文書 八四六件

附錄

一本場用地

水田 一町四反五畝〇七步
 畑地 五反六畝二十七步

總面積 二町四反二畝二十八步
 敷地 四反二十四步

二、本場職員
 技師 早坂恒太郎
 技手 羽隅莊一
 兼書記 鎌田理一
 助手 齋藤邦八

技師 間瀬鉦太郎
 技手 高石萬兵衛
 書記 森井與平
 助手 長尾新市

經費豫算 (大正四年度)

金九千六百八拾四圓

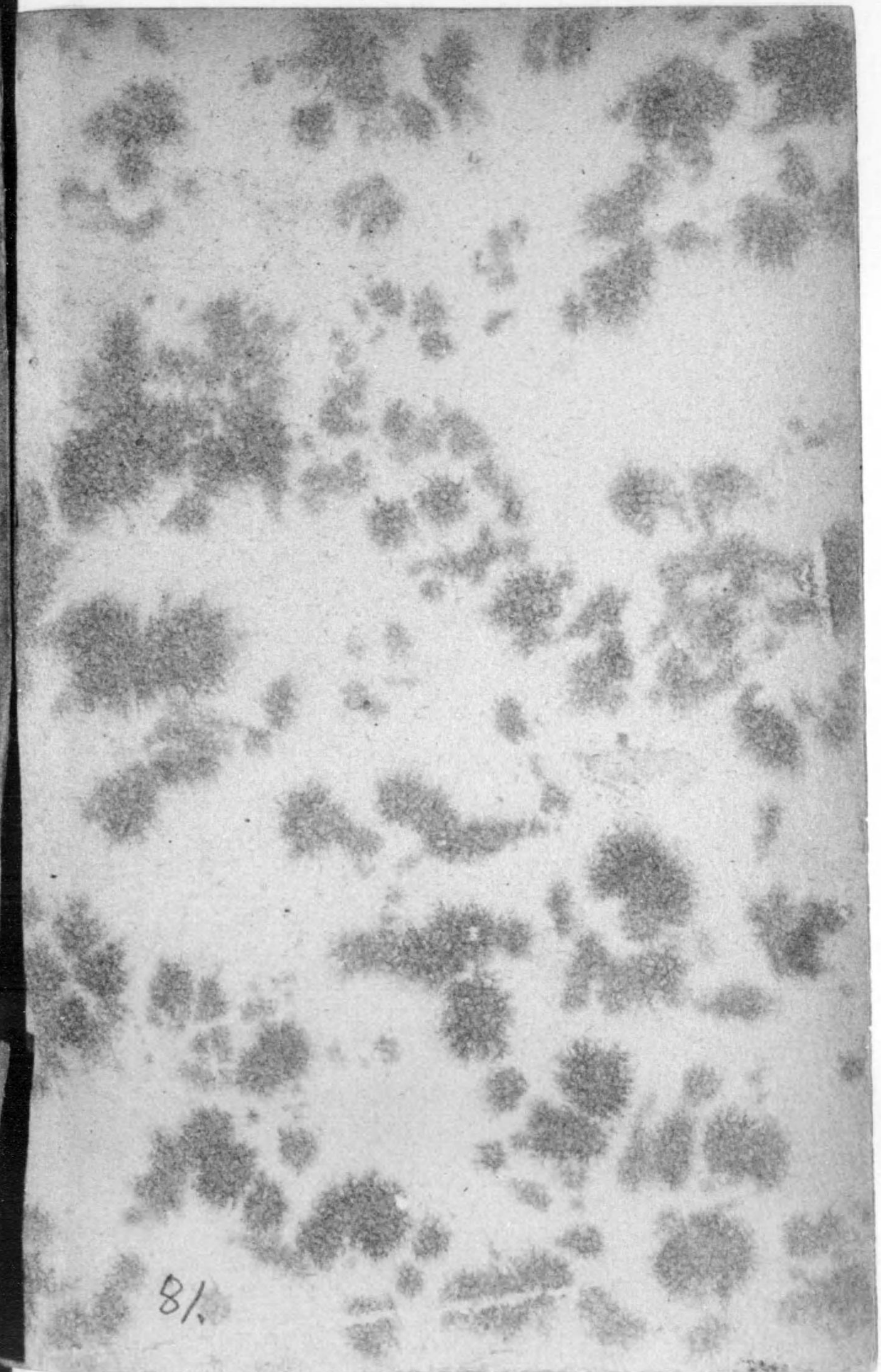
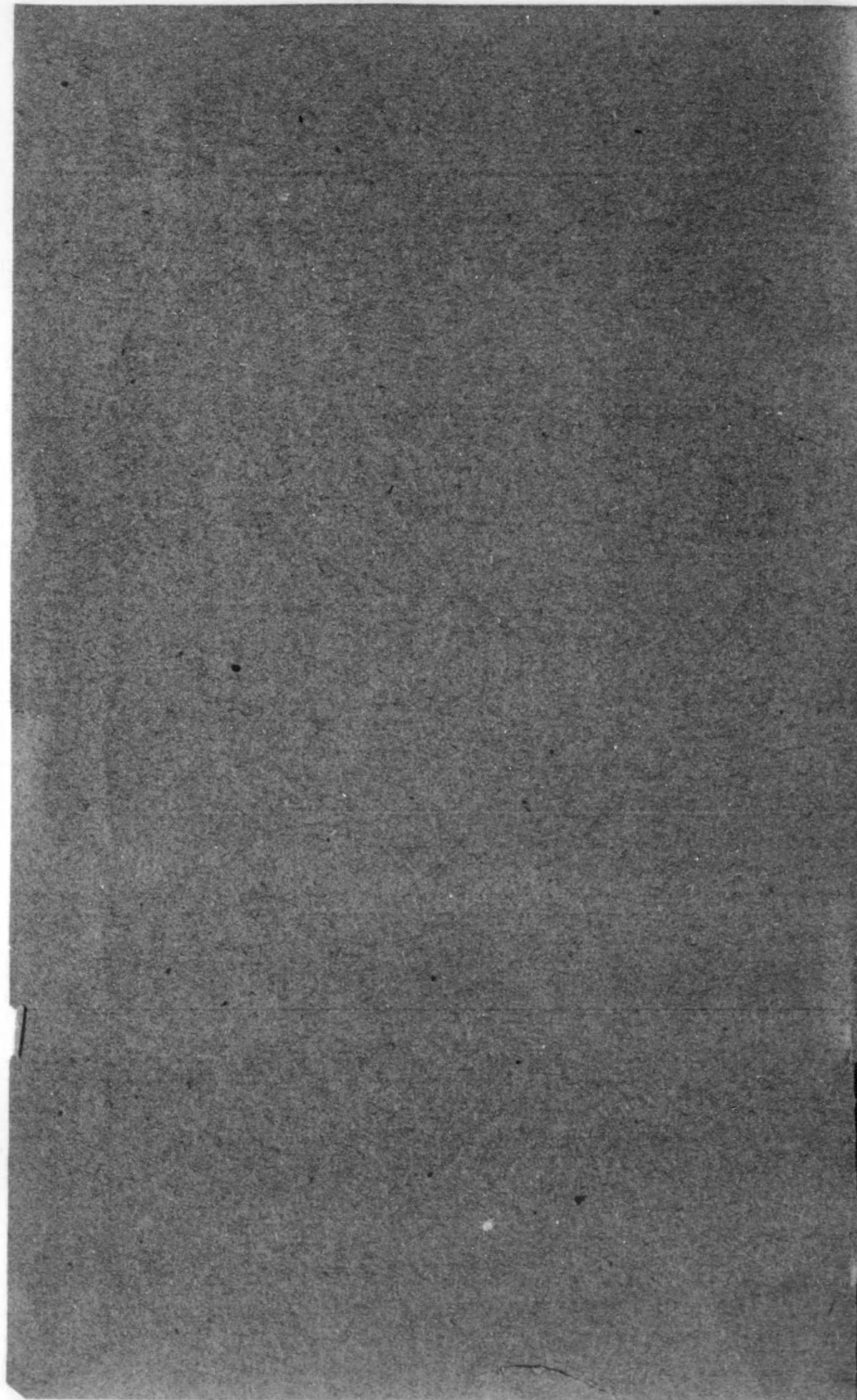
內
 金三千九百四圓 俸給
 金千九拾壹圓 旅費
 金千五百貳圓 雜給
 金千三百六拾參圓 試驗費
 金千七百六拾四圓 修繕費
 金六拾圓

大正六年三月一日印刷
大正六年三月七日發行

德島縣立農事試驗場

印刷者 德島縣德島市大工町字南大工町百壹番地ノ參 奧山文平

印刷所 奧山印刷所 德島縣德島市大工町字南大工町百壹番地ノ參



81.

14.21
350

終